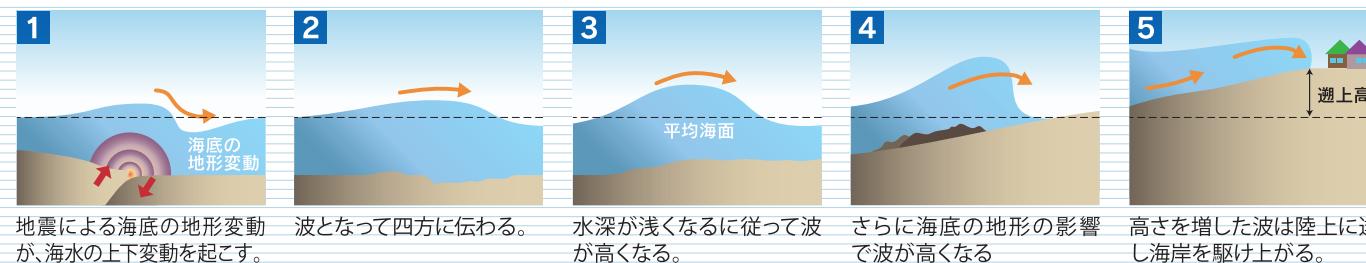


»» 津波について知っておこう!

津波が発生する仕組みを正しく理解し、いざという時にすばやく避難できるように心がけましょう。

1. 津波の仕組み

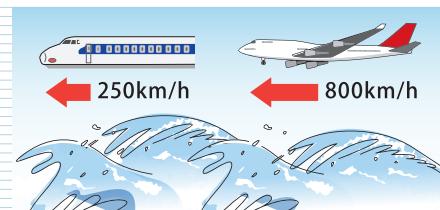
津波は海底下で地震が起り、それに伴う海底の地形変動で海水が上下に動くことにより発生します。地震の規模が大きいほど大きな津波が発生します。また、津波は地震による断層運動だけでなく、海底での地崩れや、海底火山の噴火などによっても引き起こされることがあります。



2. 津波に対する心得

■津波は速い！

津波の速さは、海が深いほど早く、海上ではジェット機並み、海岸付近でも新幹線並み、陸地上で乗車してからも自動車並みと言われています。



■津波は浅くとも危険！

津波の中でも、特に襲った波が引いていくときは、流れが速く、膝くらいの深さでも海に引き込まれ行方不明になったケースがあるので注意しましょう。



■津波は繰り返し襲う！

津波が襲ってくるのは1度だけではありません。2度、3度と繰り返し襲ってきます。また、最初の津波（第1波）が最大とは限らないので注意しましょう。



■津波の高さは想像を超える！

津波は海岸の地形によって数倍の高さに及ぶことがあります。



■津波の始まりは“引き潮”とは限らない！

津波は“引き潮”から始まるとは限りません。天候や地形によっては、いきなり大きな波が襲ってくることもあります。



避難時の目安

【群衆歩行・老人自由歩行・地理不案内者歩行等の歩行速度】

歩行速度 約1.0m/秒
(5分間では約300m)



浸水深	深さの目安および危険度	避難の場所
5m以上	2階の屋根以上がつかる深さ	
2~5m	2階軒下までつかる深さ	強固な建物 4階以上に避難
1~2m	1階軒下までつかる深さ	強固な建物 3階以上に避難
0.5~1m	大人の腰までつかる深さ 乗用車も水に浮き流されます	強固な建物 2階以上に避難
0.5m以下	大人の膝までつかる深さ	

»» 津波から逃げる！

強い地震や長い時間の揺れを感じたら、警報・注意報を待たずに、すぐに避難を開始しましょう。

避難しよう。

■「率先避難者」になろう。

声を掛け合って、すぐ避難し始めよう。



■危険な場所に注意して避難しましょう。

■避難に車は使わない！

避難渋滞が発生し、逃げ遅れる可能性があります。車での避難は避けましょう。



■逃げ遅れたら、高い建物へ避難！

もしも逃げ遅れたら、強固な建物の高い階に避難し、救助を待ちましょう。



■地域の要援護者を助けて！

できる範囲で、地域の要援護者（お年寄りなど自力で避難できない人）の手助けをしましょう。



油断しない！

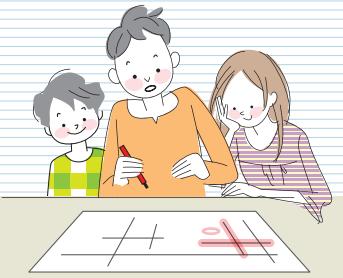
■海辺や川岸には近づかない！

警報が解除されるまでは、人探しや様子を見に行くなどで海辺や川岸に近づくことはやめましょう。

»» 津波に備える！「我が家ハザードマップ」を作ろう！

このハザードマップを使って家族で話し合い、以下の手順で「我が家ハザードマップ」を作りましょう。

① 自宅やよくいる場所（会社・学校など）を探して印をつける。



② 近くの避難所に印をつける。

- 避難所は災害時の避難・救護、情報の拠点となる場所です。自宅が被災して帰宅できない場合や自宅周辺の安全が確認できないときに一時的な避難生活の場所となります。
- ここで印を付けるのは、家族が待ち合わせる避難所です。

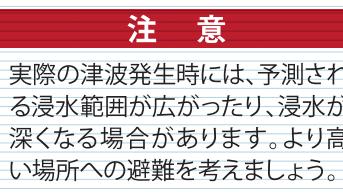
③ 避難経路を考える（□から○へ線を引く）。

- 安全と考えられる避難経路を記入しましょう。
- ※被災状況によっては使用できない場合がありますので複数の避難先を検討しておきましょう。



④ 実際に避難経路を歩いて確認する。

- 設定した避難所までは遠くない？
- 設定した避難所までは時間がかかりすぎていない？
※「避難時の目安」に示す歩行速度を参考に考えてください。
- 避難経路は危険な場所を通っていない？



注意

実際の津波発生時には、予測される浸水範囲が広がったり、浸水が深くなる場合があります。より高い場所への避難を考えましょう。